

国際環境技術振興機構『さくらサイエンスプラン』活動報告  
移転センターの活動報告

II特別シリーズII

## 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第52回



奥田綾子  
(公益財団法人国際環境技術  
移転センター(ICETT)  
地球環境部事業推進課主任)

## 環境配慮型農業や再資源化を事例とした地域の環境管理を

## ●さくらサイエンスプラン実施の経緯

四川省は内陸部でありながら、温暖で肥沃な土地を有する地理的特徴を活かした農業が盛んであったが、近年は農業分野においても近代化、生産性の向上が追及され、産業化が進められている。しかしその一方で、適切な施肥や防除等に課題も残しており、同省関係者からも水質汚染、土壤汚染などを懸念する声が上がっている。

これらの状況を鑑みた四川省科学技術協会から、同省内の農業並びに廃棄物分野を研究する若手・中堅研究者を日本に派遣し、環境配慮型農業や廃棄物の再資源化等の地域の環境管理事例を学びたいとの要望が提出され交流プログラムを実施する運びとなった。

## ●送り出し機関

本交流プログラムは四川省科学技術交流センターの推薦により、四川農業大学、西南科技大学より3名の講師が交流プログラムに参加した。

両学共に科学技術分野や農学分野に留まらず、文学、医学、芸術学など多岐に亘る学部を有する総合大学である。本交流に参加した3名の講師はそれぞれ家禽飼育、農業廃棄物管理や農村汚染対策などの分野を研究対象としており、参加者の経験に関する資料中に、四川省らしく「パンダ飼育」という単語が見受けられた。

## ●プログラムの概要と成果

交流機関の前半は、三重大学、三重県農林水産部で日本の當農に係る法制度や農業共同組合による畜農指導、農業従事者へのサポートについて学び、自国との相違について意見交換を行った。日本では當農に対し食糧生産だけを求めるのではなく、生態系保持や自然災害抑制などの多面的な効果を見出すシステムといった観点で法整備や農業共同組合の運

営がなされている。参加者らは生産力のみに重点を置き、周辺環境への配慮は後手に回る自国の現状について、既に頻出している環境課題や今後起これ得る影響について認識を高めた。

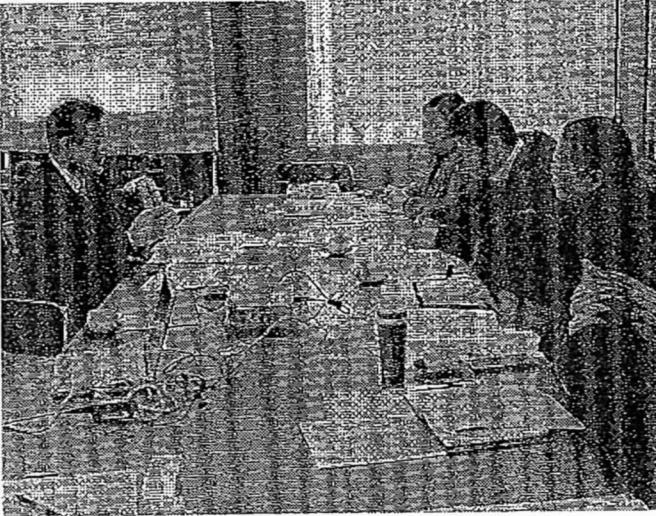
また県農業研究所、うれし野アグリ株式会社、株式会社アベックスで農業廃棄物の資源化、工場排熱を利用した温室での高品質な野菜栽培、廃ガラス材の土壤改良資材への資源化について見学及び意見交換を行った。県農業研究所では畜糞のペレット肥料化による広範囲地域での普及について研究が進められている。また、株式会社アベックスでは廃ガラスを焼成加工した土壤・水質改良資材を製造しており、今後多くに廃棄物とし

## 交流プログラム

1日目	来日/オリエンテーション
2日目	三重大学大学院生物資源学研究科、三重県農林水産部・意見交換
3日目	JAみえきた・意見交換/イオンモール東員・廃棄物保存ヤードなどを見学
4日目	うれし野アグリ株式会社の野菜栽培を見学/三重県農業研究所・意見交換
5日目	四日市公害と環境未来館・見学/株式会社アベックス・廃ガラスの再資源化を見学
6日目	日本科学未来館・見学/交流プログラム総括
7日目	浅草寺、東京都庁・見学
8日目	帰国



四日市公害と環境未来館にて公害克服の経緯を学習



三重県農業研究所にて意見交換

の対象国に対するアカデミックな視点での課題抽出に繋がった。

●今後の展望  
参加者らは帰国後に学内での報告会を実施し、日本の研究機関との学術協定締結、日本企業が有する技術の四川省への導入、学生の留学支援等について積極的に国内の関連機関に働きかけたいとのコメントを得た。日本での経験が参加者本人にとつて新たな思考を得る機会となつただけではなく、自身の研究に対する意欲向上に繋がったことを嬉しく思う。ICEETTにおいても参加者に対するフォローアップを継続するとともに、交流プログラムで強化されたネットワークを現地での技術指導や日本企業と国外機関との業務提携支援事業にも活用していきたい。

ICEETTは平成2年の設立以来、アジア諸国をはじめとする諸外国より2500名以上を日本に招聘し、環境保全に関する研修事業や交流事業を実施してきた。ICEETTがこれまで実施した3回の交流プログラムは、過去にICEETTの事業に参加した同窓生からの強い要望により実現したものである。交流プログラムを実施することで、送り出し機関や同窓生とのネットワークが、より強化されることとなつた。また、従来の招聘事業は行政官を対象とする機会が多く、本交流プログラムでの意見交換はICEETT担当者自身

で取り扱われる予測される太陽光発電パネルの再資源化についても研究を進めている。この分野については四川省でも実用化に向けた研究が進められており、今後の共同研究の可能性について意見交換を行つた。

四日市公害と環境未来館では四日市公害が発生した経緯、当時の行政・企業・市民の対応や様子、克服の課程について学習し、公害未然防止の重要性について同館職員と意見を交わした。

参加者らは日本での最新科学技術の内容のみならず、それらが必要とされる背景、活用されるための法整備などの土台作り、日本人の意識変化や企業のソフト面での取り組みについて総合的に理解を深めることができた。

#### ●受入れ機関への効果

ICEETTは、